

特集 地域で羽ばたく中小企業診断士 3

第6章

若手人材の定着を目指して 地域活性化に奮闘

長崎県 佐野 麻衣子さん



町中 悟
東京都中小企業診断士協会

長崎県で独立開業し、主に相談員として活動している佐野麻衣子さん。

佐野さんに、長崎県の経営環境やコロナ禍での経営支援、今後の展望などを語っていただいた。



長崎県で活躍している佐野さん

長崎県よろず支援拠点	コーディネーター
長崎商工会議所・長崎県商工会連合会	エキスパートバンク 登録専門家
長崎県信用保証協会	登録専門家
長崎県中小企業再生支援協議会	登録専門家
長崎県事業承継・引継ぎ支援センター	登録専門家
長崎県水産業経営支援アドバイザー	
対馬市創業支援アドバイザー	
平戸市創業相談員	

佐野さんの登録先公的機関

1. 長崎県で活動することになった経緯

(1) 地元の長崎県で独立開業

佐野さんは生まれも育ちも長崎県である。大学で法学を学んだ後、長崎県内の法律事務所に就職し、結婚を機に退職した。その後、長崎県商工会連合会に、契約社員として勤務する。

商工会連合会では、指導員である中小企業診断士が事業者の相談を受け、的確な助言を行っていた。佐野さんは、その様子をじかに見て憧れを抱き、自身も中小企業診断士を目指すようになった。

ほどなく診断士試験に合格し、2015年中小企業診断士登録を行う。資格取得後は、コンサルタント会社に転職。経営計画作成や補助金申請などの支援業務を通じて経験を積み、2019年に「佐野中小企業診断士事務所」を開業する。独立開業後、先輩診断士から勧められて社会保険労務士の資格も取得した。

地元に基づいて暮らしてきた佐野さんにとって、一貫して長崎県で診断士活動を行うのは、川に水が流れるような至極当然の成り行きであった。

(2) 現在の活動状況

佐野さんは公的な仕事を中心に行っている。特に相談員として仕事をすることが多く、よろず支援拠点、商工会議所、商工会で事業者

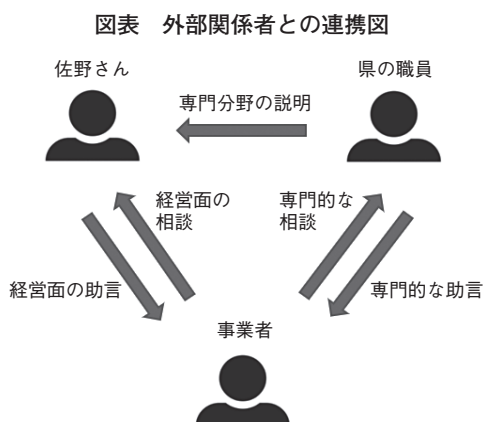
からの相談に応じている。相談内容は、創業、経営改善など千差万別である。

ほかにも、長崎県水産業経営支援アドバイザーや、長崎県事業承継・引継ぎ支援センターなどの登録専門家として経営支援を行うこともある。

「長崎県内で独立して活動している女性の中小企業診断士は、私の知るかぎり自身を含めて2名しかいない」と佐野さんは言う。そのため、エステサロンや婦人服などの、女性をターゲットにしている店舗の経営相談は、佐野さんに話が舞い込むことが多い。

また、事業承継の相談を受けた際は、学生時代や法律事務所で培った法学の知識が役に立ち、労務や社会保険にまで話が転じたときは社会保険労務士の資格が役立っていると語る。

専門外の知識が必要なときは、外部関係者の力を借りる。たとえば、水産業の事業者から相談を受ける際は、漁業に詳しい県職員の方に同席してもらう。事業者は、漁業設備や漁獲量などの専門性が必要な相談を県職員に、経営面の相談を佐野さんにするという図式になる(図表)。



2. 長崎県の経営環境

(1) 経営相談は観光業が多い

長崎県には、製造業、農業漁業など盛んな産業が複数ある。佐野さんは、「経営相談に

来られるのは観光業の方が多い」と語る。コロナ禍のため、海外からのインバウンドはもちろんのこと、国内からの旅行者が激減したためである。

観光客をターゲットにした宿泊業、飲食業、サービス業など、多くの業界が広く影響を受けており、佐野さんは窮境を少しでも打開できるように助言や提案を行っている。

(2) 豊富な地域資源

長崎県は地域資源が豊富である。離島が多く、温泉もあり、世界遺産が2つあるなど、独自性の高い資源がある。日本が鎖国を行っていた時代は、長崎県が対外貿易の唯一の拠点となった背景もあり、西洋や中国などの影響を受けた独特な文化がある。それに加えて、新鮮な魚介類を収穫できるうえに、長崎ちゃんぽんや佐世保バーガーなど、全国的に知名度の高い食べ物もある。

観光業においては、このような地域資源の情報を武器に、いかにして魅力的に情報発信できるかが大きなカギになると佐野さんは考えている。

(3) 若年層の人口流出が激しい

総務省によると、長崎県は、県外に転出した人が転入した人を上回る転出超過数が非常に多い。2021年はその人数が5,899人であり、全国でワースト3位であった*。主に都市部である福岡県への転出が多い。

若年層にとって、魅力的な就職先が長崎県には数少ないことが原因であると、佐野さんは分析する。若手人材の不足により、雇用に課題を抱える事業者が年々増えてきている。

3. コロナ禍での経営支援

(1) コロナ禍で自分自身の成長も図る

佐野さんが独立開業して間もなく、社会はコロナ禍に陥った。コロナ禍の環境の中、相談員である佐野さんを訪れる事業者は後を絶たない。資金繰りや借入の状況から、経営が

厳しくなっていることを肌で感じる。相談後は、資金面の支援を行うことが多い。融資申請や補助金申請のために、事業者が事業計画書を作るのを支援する。

経験が浅かった頃は辛酸をなめることもあった。銀行に提出した事業計画書が突き返されたことも一度や二度ではない。苦難を乗り越えようとしている事業者のように、自分自身も壁を越えられるよう研鑽を重ねていった。

「長引くコロナ禍の中で、事業者の下支えができるよう、中小企業診断士として経験を積んで成長できればと思います」と佐野さんは誠実に語る。

(2) 飲食業から事業再編を行った事例

飲食業の中でも、酒類を提供する事業者は、コロナ禍の影響が深刻である。県内でバーを営む経営者が、事業再編をするために、長崎県産品の小売販売事業を始めようと考え、佐野さんを訪れたことがあった。

経営者は、初期投資を比較的大きくすることを検討していたが、佐野さんは、先行きが見えづらい中での借入額を考えると、スモールスタートをしたほうがよいと提案した。

県内の資源を活用した小売販売事業は、少しずつ成果を出し始め、減少する飲食業の売上高を補填している。

(3) 山の中で飲食小売店を始めた事例

コロナ禍では、外食の感染リスクを回避できるテイクアウト店の需要が伸びている。佐野さんのもとにも、サンドイッチのテイクアウト店を開店するという事業者が訪れた。

当初、佐野さんは開店について反対した。検討している店舗の立地は山の中であり、アクセスが難しく集客が見込めないと思ったためだ。それでも、事業者の開店の意志は固かった。

佐野さんは知恵を絞った。開店前に繁華街で一時的にブースを設けて販売を行い、お店の知名度を高めるよう提案する。事業者の強みであった SNS での情報発信力を活用でき

ると考えたのだ。事業者は、佐野さんの提案どおり街中に簡易的なブースを設け、同時に SNS で商品の魅力を情報発信していった。

その結果、一定のファン層を作ることに成功した。ファンになった顧客は、山の中に出店後も、お店に通い続けている。サンドイッチ店は、毎日売り切れになる繁盛店になった。



佐野さんが講師を務めたセミナーの広告

4. 地域で活躍するための秘訣

(1) 幅広いつながりが大切

長崎県での中小企業診断士の知名度は、東京と比べると低いと佐野さんは言う。中小企業診断士の存在を知る事業者はかなり少ない。そのため、県内の事業者と面識を持つには、多方面とのコネクションが重要になる。商工会議所や商工会など、さまざまな公的機関とネットワークを築くことが望ましい。専門家登録ができる機関にはできる限り登録し、顔と名前を広めておいたほうがよい。

また、診断士同士のつながりも欠かせない。佐野さん自身、先輩診断士から事業者を紹介されることがよくあると言う。長崎県は、中小企業診断士の人数が少ない分、パイプは太

くなりやすく、連携や情報共有が密になる利点があると佐野さんは感じている。

(2) 仕事の取捨選択はしない

「報酬額を気にせず、時間がかかってもよいので、1つひとつ仕事を丁寧にやることが重要だと思っています。長崎県では多様な仕事に触れる機会がありますので、えり好みせず何でも引き受けて真摯に対応していれば、事業者とは、患者とかかりつけ医のような関係性になれると実感しています。その後、経験を積んで専門医のような立場になることを目指していこうと思っています」

良い仕事をすれば、次の仕事や別の事業者を紹介されることも多いと佐野さんは付け加えた。人脈が広げれば、仕事が広がる機会もさらに多くなるだろう。

5. 今後の展望

(1) 地域にかける思い

佐野さんは、若年層の人口流出を何とか食い止めたいと考えている。支援を通じて長崎県内の企業を活性化し、魅力的な就職先を増やしていきたいと言う。若手人材を増やすことで、雇用に課題を抱える事業者も救いたいと願っている。

また、自らの活動を通して県内における中小企業診断士の知名度を高めたいとも考えている。知名度を高めて地域企業を支援する中小企業診断士を増やし、長崎県に貢献したいという思いがある。

(2) 長崎県で活動する中小企業診断士へ

「長崎県には中小企業診断士が活躍できる場が広がっています。コロナ禍で困っている事業者が増える一方で、中小企業診断士の数がまだまだ少ないためです。力を合わせて地域の中小企業を助けていければと思います」

若年層の人口流出を抑止することも、一人の中小企業診断士によって実現するのは困難である。中小企業診断士ならびに自治体、地

域企業、地域住民と協力し合って地元を活性化できるよう地道に活動していきたいと佐野さんは語ってくれた。

(3) 中小企業診断士としての今後の活動

これからも相談員の仕事を中心に据えたいと佐野さんは考えている。理由は2つある。1つは、事業者からの相談内容が多彩であり、中小企業診断士として経験を積むには良い環境であるためだ。もう1つは、困っている事業者の相談相手になりたいという純粋な想いがあるためだ。

佐野さんは、これからの人生もずっと長崎県で暮らすことになるだろうと語る。地域に根付き、数少ない女性診断士でもある佐野さんは、これからも長崎県の事業者に寄り添い、支え続けていく。

〈参考文献〉

※ 総務省統計局 住民基本台帳人口移動報告
2021年（令和3年）結果

佐野 麻衣子

（さの まいこ）

九州大学法学部卒業後、法律事務所、商工会連合会、コンサルティング会社を経て独立開業。2015年中小企業診断士登録。地域に根を張って県内の事業者からのさまざまな経営相談に対応している。



町中 悟

（まちなか さとる）

ホテルスタッフやコピーライターを経験して海外に留学。帰国後はIT企業に入社し、事業推進を担当。2021年中小企業診断士登録、独立。

